



office空と海
平井 吉信

中小企業診断士

平井吉信 コーナー

こかげ～観光は自分を映し出す鏡～

4月は異動と出発のとき。願ったりの人も本意でない人もいるだろう。受け容れるまでに時間が掛かる人もいるだろう。

家に籠もっていても心が動かない。月曜日を迎える気力がみつからない。

こんなときは動いてみることに。

つまり、かたちから精神に働きかけること。

例えば、あてもなく普段行かないところに出かけてみる。

何気ない風景のなかに何かが見つかる、というより教えてくれる。

そんな人の気持ちになりきって

とある川の支流に出かけた。山奥ではなくまちから近いけれど人家は見当たらない。水と緑を見ていて、主人公に気付いた。

それは、太陽が当たるでもない日陰でもない、こかげ。



初夏の太陽 小さな支流
ななめに差し込む光 新緑
の残照 透かして見る

ふと見つけた風景の二コマ。言葉と並べただけでも伝わるから文章は要らないのか



も。



観光地の飲食

？
れるだろうか
行してあげら
くい場合は同
目的が近く
で、わかりに
？

溪谷沿いの小径を歩きながら思った。
徳島には何も無い、観光地としてはつまらない、という声が多い。
PRが不足しているという意見が出るのが観光関連の会議のパターン。
けれどPR予算をなくしても集客はおそらく変わらない。
日曜日なのに、この場所には誰も来ない。
観光地でもなければ、観光

ガイドにも載っていない。そんな場所が至るところにあるのが徳島。
だから、ほくは発信を続けている。
人生の楽園を求める見知らぬ人から連絡をいただいて県内に定住された人もいます。
電車の中吊りポスターや奇をてらう動画には主語がない。
（見ているのは自治体関係者と広告代理店だけかも）
いや、見たとしても心が動

かない。
それらは机の上で考え出されたものだから。
観光は大切だと思う。
入込客を増加させなければ、どのまちもやっていけないなるだろう。
でも、観光は実態を映し出す残酷さも併せ持つ。
なぜなら、観光は、そこに住む人が自分たちをどう見ているかを映す鏡だから。
公共のトイレを見てみよう。

びかぴかに磨かれているだろうか？ 季節の花がかれんに置かれているだろうか？
自動水栓となっているだろうか？
県外ナンバーの車が後に付いている。楽しい家族旅行かもしれない。
速度を上げたくないあなたは、脇によって道を譲ってあげるだろうか？
道を尋ねられたとする。
「あそこを右に行つて次に左に行つて…」

店には自分の判断で厳選して取り寄せた観光情報が置かれているだろうか？
それらは見やすく整理され、清潔に保管されているだろうか？
そこに住む人が誇りと使命感を持って人々を迎える。
それが観光ではないだろうか？
観光の特効薬はないので、子どもの頃から、誰かをもてなす気持ちを身体で感じて親が手本を示し、学校では気付きを与えているだろうか？
対峙すべきは東京の価値観ではなく、自分たちの意識。自らの価値観に挑戦し磨き上げる自覚。
PRの代わりに地道に積みあげていく。
いまの県政に必要なのはKPIやパフォーマンスではなく、回り道でも大切なことを続けること。その大切さを伝えていくこと。